

二〇一九年一〇月四日

草刈を終へし褒美の零余子飯
波打てる棚田の畦の彼岸花
能勢栗に長蛇の列や道の駅
市役所のギャラリ埋む賞の菊
運動会合図待たずに子ら走る

三 刀
明日香
うつき
せいじ
素 秀

二〇一九年一〇月三日

一人漕ぎできしぶらんこ天高し
みのり田の風の漣足止む間なし

菜 々
たか子

二〇一九年一〇月二日

棚田より溢れんばかり稲穂波
廃校舎いまレストラン大銀杏
一少女画架を立てたる花野かな

明日香
たか子
智恵子

二〇一九年一〇月一日

金の穂の夕日に戦ぐ猫じゃらし
秋日射し浴ぶ望郷の四郎像
運動会綱一本にどよめけり
きちきちの高き飛翔にのけぞりぬ

やよい
なつき
宏 虎
たか子

二〇一九年九月三日

物干しに煙草くゆらせ秋の人
門前に大甕据へて新蕎麦屋
川べりの一叢殊に虫すだく

せいじ
みづき
やよい

二〇一九年九月二九日

黄金田にウエーブなして風の道
相互ひ久闊叙して師の墓参
秋天に銚を立てたる大公孫樹

やよい
せいじ
ぼんこ

苑そぞろ秋七草にめぐりけり
島山の低し一面青蜜柑

菜 々
宏 虎

二〇一九年九月二八日

古里のバス停下りて花野道
水の秋鷺の抜き足差しに
飛び火めく本丸跡の彼岸花

なつき
満 天
なつき

毎日句会みのる選・二〇一九年一〇月六日